

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医保健看護学科

職階 准教授

氏名 大仲賢二

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

獣医保健看護に所属し、感染症学の教員として動物感染症学（特に細菌）を中心に教育活動を行っている、また兼務として食品生命科学科の食の安全分野の教員として食品衛生学（特に微生物学系）の教育活動も行なっている。主たる授業科目は動物感染症学I、食品衛生学、病原微生物学であり、加えていくつかの講義・演習・実習の分担を行っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
食中毒科学	食品生命科学科	必	3	48
食品衛生学実習	食品生命科学科	必	3	42
HACCP 管理論	食品生命科学科	選	4	50
病原微生物学	食品生命科学科	必	2	67
動物感染症学I	食品生命科学科	必	1	77
食品開発PBL実習	食品生命科学科	選	2	34
食品衛生学	動物応用科学科	選	4	46
HACCP 管理論	動物応用科学科	選	4	6
動物看護学概論	獣医保健看護学科	必	1	78
キャリアデザイン基礎	獣医保健看護学科	必	1	78
動物形態機能学・臨床検査学実習I	獣医保健看護学科	必	1	77

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

教育のあるべき目標は、まず社会ルールを知り守ることと考える。その前提のもと新たな知識や技術を「知ること」に喜びを感じ、新たに知り得た知識や技術を社会に応用することのできる人財を育てることと考える。近年のICT技術の急速な進展により様々な情報が、その真偽、優劣に関係なく瞬時に大量に得ることができるようになった。学生にはこの情報過多の中でどの情報が必要か、どれが正しい情報なのかを判断し整理する能力を持って欲しいと考えている。教員として、新たな知識や技術を知ることには喜びを感じる姿を示し、迷ったときには本学の学生である間のみならず卒業してからも気軽に訪れ意見交換や、人と人との中継ぎの場を提供できるようにしたいと考えている。

### 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

- ・社会ルールを知り守る授業を行う

授業に際して、ルールを予め提示しルールに基づいた授業を行っている。具体的には、授業開始時間の厳守、提出物の提出方法と提出時間の厳守を行い、決められたことを守ることで、集団生活で重要な、「約束を守る」ことを認識することのできる授業運営を行っている。

- ・学習者が授業にしっかりと参加する

学習者が主体的に問に対して調べ、調べた内容を発表する機会の多い授業を行っている。具体的には講義中で新たに出てくる言葉の定義をこちらから学習者に問いかけ、参考書やスマートフォン等で検索後発表してもらっている。自ら調べて発表するように授業を設計し調べることで、色々なことを自分で調べれば理解できるという自己肯定力をつけることのできるように授業を企画している。発表を受けてその内容についてこちらからコメントを加えてさらに情報の真偽や知識を深められるように心がけている

- ・情報の整理ができるような授業を行う

こちらの問いに対して発表の際に、情報源と情報の内容を伝えてもらい、色々な情報の中からどのような情報源有用であるか併せて解説を行うように授業を行っている。

#### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

食品衛生学実習において、法令（食品衛生法）に基づいて行う検査方法を実習の題材とし、実習前に学習支援システム「AzaMoodle」に法令に基づく検査方法（プロトコール）を示し、解説（動画）を加えたものを提示し、示したプロトコールと解説も用いて実験に必要な器具機材など準備物および実験の流れのプレゼン資料としてまとめてもらい、作成した資料に基づき実際に準備、実験、片付け、まとめという形で学習者が主体的に行うようにしている。

#### (2) ICTの教育活用

有

学習支援システム「AzaMoodle」を利用して実習前に実験の流れ等動画で配信し、実際に実習を行う前に実習の流れをイメージしてもらい、実習前に準備からの流れを課題として設定しLMSに提出するようにしている。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

学習者に知りたいと思えるような内容（実際に自分が将来遭遇する可能性がある事象や、現在社会で注目されているような事案）を交えて授業することを意識して行った。

### (2) 学生の理解度の把握

B

本学の学習支援システム「AzaMoodle」を用いて講義した内容について関連のある資料を読んで設問に答える形の課題を設定し理解力のチェックを行っている。課題について理解できていない等に対応するために、対面での質問の時間を設定し何を書くことが必要なわからない学生に対して対応をした。

### (3) 学生の自学自習を促す工夫

A

講義内で、その時の講義内容に沿った形でフィールドワークを伴う課題を行い（例えば食品衛生学では、商店で実際に販売しているものを題材にした）身近なところで、学習者が学んでいるものが活かされていることを体験できるような課題の設定を行うことで知る喜びを感じることができるようにしている。また課題については必ず提出するように促し質問をする時間を講義時間外にも設定し昨年度よりも提出率が向上した。

### (4) 学生とのコミュニケーション

A

メールでの対応や直接来室をしての対応など、学習者が望む方法で対応するように行った。メールでの質問に対して次の日までには必ず返信を行うようにして学習者の不安を取り除くように努力した。また、メールでの問い合わせで意思の疎通がはかれない場合には対面での説明する機会を設け学習意欲が持続するようにした。課題の提出が思わしくない学生に対しては、逐次呼び出し等を行うことで課題の提出率の向上をはかった。

### (5) 双方向授業への工夫

A

講義中は、こちらか質問を投げかけ、私からの質問に対してその場で調べて答えてもらい、補足の解説するように心がけた。また、メールでの質問に対しては次の日までには必ず返信を行い、学習者が理解できない場合には対面での説明する機会を設け学習者が理解するまで説明するように心がけた。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

理解できていない点を、さらにわかりやすい言葉で説明するように心がけた。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

わからないことについての質問の内容が、以前よりも具体的になった

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

重要なことに対して、時間を割くようにして講義内容に優先順位をつけて行う

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

学習者が、予習をすることに対してあまり時間をかけていないことから、復習を中心に学習できるように学習方法を変えてみたいと思っている

### (2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生からの不満はなく、幅広く情報が得られると評価されている

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

授業改善につながると考えるFD研修会はオンデマンドを含めて参加するようにしている。研修をとおして他大学や他の教員が指導力向上のために行っている取り組みを積極的に自分の講義に取り入れるよう努力している。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

短期的には、愛玩動物看看護師の国家試験の全員合格を目指す、引き続き食品衛生における最新の情報の把握に努め、得られた情報を交えた教育を行うことで、今、学んでいることが社会的にどのように重要なのか知り、今後の学修や卒業後の社会活動にどのように結びつくかを理解させた上で知る喜びの重要性を説きたい。

長期的には、新たに知り得た知識や技術を社会に応用でき、「良い・悪い」という結果だけを求めるのではなく、良い理由は何？悪い理由は何？と「何」が考えられる人財の育成を展開していきたい。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

シラバス、授業アンケート、学習支援システム「AzaMoodle」、FD（リアルタイム、オンデマンドを含む）研修会の参加記録（受講後のアンケート提出）、授業で用いた配布資料、スライド資料および授業動画